

平成29年度第1回まちづくり懇談会

1. 日 時：平成29年5月11日（木） 午後1時30分～
2. 場 所：市役所9階 第2応接室
3. 次 第
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 出席者自己紹介
 - (3) 市長挨拶
 - (4) 懇談
4. テーマ：「視覚障害者が安心して暮らせるまちにするには」

【議題】

- ・視覚障害について広く理解してもらいたい
 - ・視覚障害者にとってやさしい道路へ
-

●団体

本日はお忙しい中、私たち視覚障害者のためにお時間をつくっていただきまして、ありがとうございます。

船橋も市制80周年を迎え、人口も63万人になりまして、政令指定都市を除きますと船橋が1番の市だとお聞きしました。市長さんも今後大変でしょうけど、よろしく願いいたします。

現在、私どもは、会員が55名、賛助会員が15名、合計70名で活動しております。

○市長

今日は、視覚障害者協会の皆さんと話し合いができるということで、ようやくこの日が持てて、とてもよかったなと思っています。

日ごろから会長をはじめ、皆さんには視覚障害者の生活サポートを横の連携をとりながらしっかりと活動をしていただいておりますことを、まず初めに御礼を申し上げます。

会長からお話があったように、船橋市は今年、市制80周年という記念の年を迎えまして、人口も63万人という非常に大きなまちになりました。市長同

士で話す市長会というのがありまして、そこでいろいろ会って話す機会がありますけれども、船橋市はほかの市から見ても活力があるというお話をいただきます。いろいろな方が、これまでの歴史の中で頑張ってきていただいて、それぞれの分野でお力添えをいただいてきたことで、今のまちとしての形が成り立っていると思っています。

人口が多い分、市民の皆さんがいろいろな形で連携してつながっていくことが、子供たちの世代に、住みよい、いいまちとして引き継ぐためには何よりも大切だと思っておりますし、そういった中で様々な障害の分野についても、お互いの理解を深めて、一市民として連携ができる形をつくっていけるようなまちづくりを、皆さんのお力添えをいただいてやっていきたいと思っています。

●団体

我々、障害者自身も努力しております。私たちは作品をつくって、公民館で作品展を開催していますが、まだまだ観覧される方も少ないものですから、どうしたら市民の皆さんに、我々のつくった作品が見てもらえるのかなど、心配しています。しかし、我々視覚障害者は体が動けませんので、役所の手を借りるところもあります。障害者もこういう活動をしているということを市長には言っているとは思いますが、なお一層お願いをしたいと思えます。

船橋市の障害者全体の連絡協議会というところがありまして、我々、20ぐらいの団体が、2カ月に1度ぐらい集まって話し合いをしています。

その中で、視覚障害者が歩きやすい、住みやすい状態にするためにアンケートをとりまして、その中で一番提案の多かった道路についていろいろとお話をさせていただきたいと思えます。

2車線ぐらいの車道で1メートルぐらいの歩道がついている道路がありますが、宅地に入出入りする車のために、車道と宅地の間の歩道がスロープになっていて、ガレージ側が高くなり車道側が低くなっています。これは歩道を人が歩けば、車道側に少し傾いていることになり、ベビーカーなどは傾いた状態で押すこととなります。車椅子を1人で操作するとき車道側に斜めに傾斜していることは非常に危なく、転倒すると前から来た車道からの車にはねられるという状態が起これると思えます。車は多少段差があっても上がっていけるので、

歩道は歩行者のためという考え方をさせていただいて傾斜をつけないようにしていただきたい。

そんな訳で、平たんな状態が一番いいと思われませんが、今のものを全て直すのは莫大なお金がかかりますし、これから歩道を整備する上で、そういう考え方をさせていただけばと思います。

道路に盆栽とか、木が道路にはみ出ております。それを剪定してほしいのと、あともう一つは、歩道の電柱とか交通標識を歩行者に障害のないところに、設置を切りかえていただき最低限、車椅子が通れるだけの歩道の幅を確保してほしいと思います。

今の人たちは、スマホを見ながら歩いていますね。歩いていると平気にぶつかってくるんです。そういう人は謝りもしないで平気に行くから、それをどうにかできないかと思っています。

私も、歩行がまだ自由ではないんですけど、白杖を使い1人歩行を何とか、やっている身です。最近では音声の信号がかなり増えてまいりまして、とっても助かっています。浜町に住んでいるのですが、イケアとららぽーとに行くところに十字路になって交通量の多い道路がありまして、そこには音声信号がないです。設置する上で何か基準があるんですか。

○市長

作品展のときの入場者についてはせっかくやっているのになかなか来ていただける方も少ないので、担当の者と工夫をして、広報のPRとか、私自身もいろいろなどころでお話をさせていただきます。

信号は市が直接つけるのではなくて、警察、県の公安委員会が設置するんです。要望として、市から上げていくことは可能なので、確認をさせていただいてやっていこうと思います。

歩いていると邪魔になってしまう看板などのお話がありましたが、自宅の盆栽などを歩道に出している場合は、自分の家の中でやってくださいと指導しています。お店の前に並べているのもあるので、これについても十分に徹底をしたいと思います。あとは、標識などについても、道路パトロールを一生懸命やって、かなりの数の撤去はしているんですけど、イタチごっこになっている部分

もあるのです。ただ、視覚障害の人たちにとってはそれが非常に危険な存在なんだというのは、理解を得る周知活動とあわせて、やっていこうと思います。

あと電柱ですが、これはかなり難しい課題になっています。電柱の地中化はかなりお金がかかるのと、既に地下に、水道管やガス管などいろいろなものが埋まっているんですね。そのような整理されない状況だと地下に埋めること自体が非常に難しかったりします。また電柱を地上から無くしても、変圧器は地上に置かなければならないとかがあるんですね。ただ、やれるところは、やっていきたいと思っています。

そして歩道の傾斜については、先にやらなければならないと思っています。人にやさしい歩道づくりということで、市では積極的にやってきているんですけど、私が歩いていても危ないなと思うところもあります。歩道を平らにして下げるというのも進めてはいるのですが、いっぺんにということはできないので、できるところからしっかりとやっていきたいと思っています。歩道の傾斜というのは、障害のある方もそうだし、車椅子の方もそうなんですけど、高齢者の方で、最近車引いて歩いている方いらっしゃいますよね。傾斜のところは車道側のほうに傾いているんで、それも担当とも話をしています。

ただ、国道、県道にもそういう場所が多いんですよね。県に要望して、やっもらっている部分もあるんですけど、なかなかすぐにやっもらえないところもあったりします。

用地買収し道路を広げて、歩道をつくるのは非常に大変なので、一方通行にして、余った1車線を歩くスペースと自転車と歩行者に振り分ける手法は早くできてよいのですが、これも住んでいる方が全員合意をしてもらえないと、なかなか進まないんです。ただ、これは今後候補地を探してやっていきたいと思っています。

あとは、歩きスマホの件ですが、これは社会的なマナーとして当然ですよね。毎年、夏に、こども未来会議室というのをやっていて、テーマが市長になったら何をしたいかということで、市内の中学生と話をするんですね。非常に子供たちはいろいろなアイデアを持っていて、学校の周りが暗いからと言われて全部調べて街灯をつけたり、キャッチボールができる公園が欲しいという意見には、試験的にやってみたりしましたが、その中に、歩きスマホ禁止条例をつ

くったほうがいいんじゃないかというのがあったんですよ。スマホやっていて、ホームから落ちちゃって亡くなっちゃったとかという例もありますし、何かの機会に市の広報とかでもやっていこうと思います。

それと、そのこども未来会議室には、青年会議所とか、商工会議所の青年部とか、若手のまちづくりに参加しているグループに手伝ってもらってやっていますので、若い彼らにも言ってみます

視覚障害の方への理解という意味で、こんなことをわかってもらえるといいのというものは、何かありますか。

●団体

市から郵送されてくる書類に記入するのに、私は拡大読書器という機器を使いながら書いているんですが、やはりテキスト形式でパソコンで聞き取れるような方式とかあるといいのかなと思っています。

今は、iPad や、iPhone など、パソコン以外にどんどん新しい機器が出ておりますね。それに挑戦しようと思っています。生活に必要な用具の支給があるのですが、その枠を広げていただいて、欲しい人には iPhone などにも枠を広げていただきたいです。

また、耐用年数が5年ということで、5年に1度出るという上限が決められています。10万の枠があるのですが、残った残額は、5年経たないと使えないという形式みたいですが、ほかの市町村に聞きますと、耐用年数の期間は自由に使えるということを知ったんですね。

上限の範囲内であれば耐用年数の期間であればそれが使えるというふうに考えていただければと思います。

○市長

国の示す基準があって、それに基づいてやっていますが、5年待たなくても使える市もあるということですよ。もしかしたら各市の運用で賄っている部分である可能性がありますので、担当にお伝えさせていただきます。

●団体

我々は点字ブロックを頼りに杖をつけて歩いているんですが、点字ブロックの前から平気でスマホをしながら歩いてきて、寸前にまで来てとまるんですね。

この点字ブロックというのはどういう役目をしているのかということ、学校でも教えてもらえれば助かります。

最近、西船橋駅、京成の海神駅、船橋駅、私1人で歩いていると必ず、私とガイドさんが歩いていると「どこ行かれますか、大丈夫ですか」という声をかけてくれる方がいるので、非常に助かっています。特に船橋駅の改札口なんて非常に混みますから。

○市長

それは駅員ですか。

●団体

ガードマンさんみたいな方がいます。南船橋駅もそうですね。よく新習志野のプールに行くんですけども、必ず来て案内をしてくれます。

○市長

JRにも、そういった声をいただいたことはお伝えさせていただきます。

●団体

私、薬円台6丁目に住んでおりますけど、6メートルぐらいの道路で白線のセーフティーゾーンが引かれていますけど、それが引かれていない道路もあるんですね。どうしてなのでしょう。私は弱視なんですけど、全部引いていただければすごく安心して歩けると思います。

○市長

そうですね。後で場所をお伺いし対応します。道路は必ず警察との協議が必要になる範囲があるんです。さっき言った信号だとか、交通に制限かけるというのは、必ず警察が入って一緒に合意した上じゃないと、市道でも勝手にできない部分があるんです。

ただ、そうやって声を上げてもらうのが、ものすごく大事なんですね。ものすごい数の道路があるので、実際に言ってもらって対応していきますので、何かあれば、言っていただければと思います。

●団体

わかりました。

今度集まったときに、そういった要望があれば、まとめて要望をしたいと思います。

それからもう一つ話があるのですが、昔の自動ドアは前に立てば自然にドアが開いたんですが、最近はタッチしないと開かない自動ドアが多くて困ってます。玄関のところにタイルの色とは違うものを置いてくれるとここが入口だとわかるんですが、ないと分からないことがあります。そのため、できればお店や公共施設で入り口のところに地面とは違う色のマットなどを置いて頂ければガラス戸に顔や帽子をぶつけないで入れると思うんです。

○市長

わかりました。これは検討させていただきます。

●団体 本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

○市長

今日は、ありがとうございました。いろいろお話を伺って、やっぱり勉強になることが多く、様々なヒントもいただきました。また、何かの形でこういったやりとりが、年に1、2回でも、できるといいなと思いました。

今日いただいたことで、できるものは取り入れられるようにやっていきたいと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。